

2018 男女共同参画市民フォーラムinいわみざわ

『みんなで築こう人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 違いを認め合う心～』

平成30年6月24日（日）、北海道グリーンランドホテルサンプラザにおいて、男女共同参画市民フォーラムが開催されました。

今年は、作家の落合恵子さんを講師にお迎えし、『いま、人権から 2018』と題してお話しいただきました。講演前には、第三回男女共同参画川柳コンテスト表彰式と人権啓発寸劇を行いました。



■講演「いま、人権から 2018」作家 落合恵子さん

◆「人権とは誰の足も踏まないこと、同時に人権とは誰にも自分の足を踏ませないこと」

落合さんは人権をこのように定義されました。この場合の足とは具体的な足を意味するのではなく、自分という存在のこと。自分を踏ませない、相手も自分を踏んでいけない、それを人権って言っても良いよねとお話になり、そして、会場内に問いかけました。「誰かに足を踏まれたことは？」「誰かの足を踏んでしまったことは？」どちらの問いにも、客席から多くの手が挙がりました。誰かに足を踏まれたことがあるで手を挙げた方が、一方で誰かの足を踏んだことがあるで手を挙げてい



る。一つの犯罪と違って、人権侵害とはある時被害者、ある時加害者、ある時は無関心という加害者を生きてきましたという結果です。とても複雑なんです。と話されました。

◆様々な活動に取り組む2つの理由

落合さんは、出版活動や人権活動などに取り組む理由について次のように話されました。

一つは、1945年終戦の年に生まれたということ。たくさんの人々が苦しんで死にたくないのに死んでいった。これは重大なる人権問題です。人権の反対側にあるのは戦争です。同時に無関心という見方もできるのですが。これが一つの理由です。

もう一つは、非嫡出子として生まれたこと。私を産んだ時、母は結婚していませんでした。15歳のとき母に聞きました。差別されることを知りながらなぜ私を産んだのか。とても残酷な質問だと分かっていましたが、その答えを知らない限り私は前に進めないと思いました。そのとき母は次のように答えてくれました。昨日街中ですれ違った幼馴染が今日焼夷弾で死んでいく時代、命ってなんて儚いだろうと思ったその



ときに、自分が新しい命を身ごもっていると知った。どんなに反対されても、後ろ指さされても良い、私産むって決めたんだって。そしてこう続けました。あなたは出生について差別される側の一人に残念ながら生まれてきた。世の中には様々な理由で差別されている人がたくさんいる。差別される側の人たちと柔らかく手をつないで、少しでも閉じられた扉を開けて行ってほしい。この母の言葉が私の活動の大きな理由だったのだなと、残念ながら母を見送ってからリアルに感じる自分がいます。

◆伝えたい言葉は「NO、GO、TELL」と「あなたが悪いわけじゃない」



時事問題にも触れた落合さん。色々な話題がありましたが、次の話が印象的でした。

セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメントに私たちの社会は満ちています。それはなぜか。支配する側とされる側がはっきりと分かれていて決まっているから。上の者が下の者の人権を奪っていく。ハラスメントは一部の人間がやっているのではなく、この社会でそれを認めているすべての人間は同じ加害者なのだ、から始まらないと何も見えません。セクシャルハラスメント、レイプ、セカンドレイプ、とにかく広めるしかないと思って、私はあえて小説を書いてお

ります。虐待もそうです。これは人権に対する犯罪なんだって考えなきゃいけない。

虐待、性犯罪、性的暴行を予防するための3つの言葉。「NO、GO、TELL」。なぜ言わないといけないのか。多くの子どもたちは、イヤっていうことの方がうんってうなずくことよりはるかに難しいことを知っているからです。NO、イヤって言いなさい。GO、逃げなさい。TELL、信頼できる大人に語りなさい。これを子どもたちにあらゆる機会に伝えたい。そして、虐待を受けた子どもたちへの、女性に対してもそうですが、大事な一つの言葉を80年代に学びました。「あなたが悪いわけじゃない。」昔はあなたが悪いのよ、あなたの服装の問題よ、あなたの日頃の行いがねってという言い方がまだ多かった。あなたが悪いわけじゃない。これをずっと言い続けないと、傷ついた被害者が自分の心の置き場所がなくなるんです。私はこれを絵本としてまとめられたらと思いながら、中々出来ずにこの年代になってしまいました。皆さんの中にそう言った意志のある方は考えていただければ嬉しいと思います。

◆人生は一冊の本 ～ 一人ひとりが主役

最新作の『泣きかたをわすれていた』についてのお話は、冒頭部の朗読から始まりました。約7年、在宅で介護した母との関係性の中から、エッセイでは書けなかった大事なところを形にしようと思って書いたと話されました。お母様を看取ったときのお話には涙する方もいました。

そして、この本を書いたのはこの言葉にたどり着いたからだと思うと、「人生は一冊の本です」から始まる一節を朗読されました。落合さんは、みんな一冊の本なんですと本当に書いてますとおっしゃいました。自分自身あと何ページ残っているのか、10ページかもしれないし5ページかもしれない、もしかしたら数行かもしれない。人にとって確かなものは今。私と私の今。そうしたら私の今を、自分の信じた目標に向かって一生懸命生きていく、それしかないなって思ったりする。人権の主役ってお一人お一人の皆さんなんです。あなたはまさに主役なんです。そのことを大事に考えながら、次の世代の子どもに手渡すのは何か、しっかり自分に問いかけていきませんか。と結ばれました。



☆フォーラム参加者の声（一部抜粋）☆

- とても素晴らしい内容でした。誰の足も踏んではいけない。ふませてはいけない。心に残る一言でした。大事な言葉です。ひとりの心を広くそして海より深くなれ。一人の人間としてとても大事な内容でした。（60歳以上女性）
- さすが落合さん、素晴らしい講演でした。深川からきてよかったです。（60歳以上女性）
- 人権について色々と考えさせられた。とても勉強になりました。ありがとうございました。（40代女性）
- ご自身の体験、著作にもふれながらの御講演、感銘深く拝聴させていただきました（50代男性）
- TV や雑誌でお見かけする落合さんのお話を直に聞くことができ、とても貴重な時間でした。話の節々で心の広さ温かさを感じました。（30代女性）



■第三回男女共同参画川柳コンテスト表彰式

平成30年4月2日から4月27日まで募集した男女共同参画川柳コンテストの表彰式を行いました。今年は29名から75作品の応募があり、厳正なる審査の結果、大賞1点、入選5点が選ばれました。みなさん、ご応募ありがとうございました。

- | | | |
|-----|--------------------|-----------|
| ●大賞 | エプロンを 揃えて分担 笑顔のGO | 藤森 外史 さん |
| ●入選 | 目で合図 あうんの呼吸 家事こなす | 大野 美奈子 さん |
| | セクハラを 言葉あそびと うえ目せん | 川村 友枝 さん |
| | 子育てに 男女平等 母の意志 | 小林 英子 さん |
| | 差別なき 職場でキャリア 積みあげる | 高松 時子 さん |
| | 新時代 男女を問わぬ 国作り | 田栗 玲子 さん |



■人権啓発寸劇とパネル展

今回のフォーラムは、岩見沢人権擁護委員協議会との共催で開催しました。講演前には人権イメージキャラクター人KENまもるくんと人KENあゆみちゃんによる人権啓発寸劇を、会場ロビーでは人権啓発パネル展が行われました。

